

役員名簿

理事・監事

(平成 25 年 6 月 1 日現在)

役職名	氏名	所属
理事長 (代表理事)	持田 勲	工学博士 九州大学名誉教授 全国石油協会会長 九州大学炭素資源国際教育研究センター特任教授
副理事長	尾座元 宣一	前福岡県福祉労働部理事
副理事長	川野 田實夫	大分大学名誉教授
副理事長 (業務執行理事)	松岡 信明	理学博士 前当協会事業本部長
業務執行理事	内田 唯史	工学博士 当協会事業本部長兼普及啓発部長
業務執行理事	高木 満郎	当協会経営本部長兼総務部長
理事	亀山 泰治	九州電力株式会社 地域共生本部部長 (環境担当)
理事	浅野 直人	福岡大学法学部教授
理事	島岡 隆行	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授 (環境社会部門)
理事	二渡 了	工学博士 北九州市立大学国際環境工学部教授
理事	百島 則幸	理学博士 九州大学アイソトープ総合センター教授
監事	甲能 市郎	甲能公認会計士事務所 (所長)
監事	土生 清文	株式会社福岡銀行監査役

評議員・顧問

役職名	氏名	所属
評議員(会長)	松藤 泰典	工学博士 九州大学名誉教授 北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科特任教授
評議員	楠田 哲也	工学博士 九州大学名誉教授 九州大学東アジア環境研究機構特別顧問
評議員	薛 孝夫	農学博士 西日本短期大学緑地環境学科特任教授
評議員	田中 昭代	医学博士 九州大学大学院医学研究院講師 (基礎医学部門)
評議員	中野 勝之	工学博士 福岡大学工学部化学システム工学科教授
評議員	中村 明	九州電力株式会社 上席執行役員 (発電本部安全・品質保証担当)
評議員	藤岡 祐一	工学博士 福岡女子大学国際文理学部教授
評議員	松藤 康司	工学博士 福岡大学工学部社会デザイン工学科教授
評議員	宮島 徹	理学博士 佐賀大学大学院工学系研究科教授
評議員	矢幡 久	農学博士 九州大学名誉教授 西日本短期大学副学長・緑地環境学科教授
顧問	竹下 健次郎	工学博士 九州大学名誉教授

技術諮問委員

役職名	氏名	所属
技術諮問委員	井手 修	西部ガスエンジニアリング株式会社 代表取締役社長
技術諮問委員	出光 一哉	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授 (エネルギー量子工学部門)
技術諮問委員	大上 和敏	理学博士 大分大学教育福祉科学部准教授
技術諮問委員	小出 秀雄	経済学博士 西南学院大学経済学部教授
技術諮問委員	小山 次朗	農学博士 鹿児島大学水産学部教授
技術諮問委員	関根 雅彦	工学博士 山口大学大学院理工学研究科教授
技術諮問委員	西田 哲明	理学博士 近畿大学産業理工学部生物環境化学科長
技術諮問委員	早瀬 隆司	工学博士 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科長
技術諮問委員	久留 百合子	株式会社ビスネット 代表取締役
技術諮問委員	平松 和昭	農学博士 九州大学大学院農学研究科教授 (環境農学部門)
技術諮問委員	逸見 泰久	理学博士 熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター教授
技術諮問委員	渡辺 公一郎	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授 (地球資源システム工学部門)

一 編 集 後 記 一

当協会は平成24年4月1日に一般財団法人へ移行し1年を経過しました。移行に伴い、公益事業の推進、ガバナンスの強化、技術力向上等が更に求められるところであります。このためには、職員一同の努力・研鑽はもとより、理事・評議員・技術諮問委員の方々など幅広い方面からのご支援・ご指導を頂くことも重要であります。「環境管理」は、当協会に関係される先生方からの事業の方向性に関する示唆、及び職員の技術発表の場として年1回ではありますが40年以上継続して発行しております。

第42号では、「巻頭言」として佛淵孝夫佐賀大学長様に大学におけるエコアクション21を中心とした環境への取組をご紹介いただきました。大学には様々な要素があり一つの総合的な社会を形成しているという趣があります。その点で佐賀大学の取組は、社会の環境への取組の在り方を示唆していると思います。特にアウトカム（社会への貢献・インパクト）を重要な評価基軸と考えられていることは当協会の今後の運営においても大変参考になります。

「論説」では福岡女子大学の野馬幸生先生と、大分大学の大上和敏先生にご寄稿いただきました。

野馬先生は廃棄物焼却炉におけるニトロ多環芳香族炭化水素化合物の発生挙動について実験データを基に解説され、焼却炉からの排出抑制について提案されています。同物質に限らず変異原性と発癌性を有する有害化学物質については、大陸からの越境汚染などグローバルな環境問題とも関連して今後も重要な研究課題であると思います。

大上先生は福岡県船小屋温泉について化学成分と安定同位体情報を精査され温泉水の起源について提案されています。特にヘリウムやメタンなどのガス成分についてマントル起源の可能性を指摘されています。このような研究手法は、単に地球化学的な研究にとどまらず、資源問題とも関連して今後ますます重要になると思います。

「特別寄稿論文」では九州大学の有馬立身先生にご寄稿いただきました。放射性廃棄物の地層処分に

関連して、ウラン（ウラニルイオン）の粘土鉱物への吸着挙動を計算科学的手法によって説明されています。共存イオン、静電相互作用、分子間力など様々な要素が関連する事象を統一的に扱って、処分環境の適切な評価を目指されています。福島第一原発事故によって環境に放出された放射性セシウムについて「土壌の放射性セシウム捕捉ポテンシャル(RIP)」評価の重要性が指摘されていますが、先生の研究はこのような方面にも展開できるものと思います。

当協会では業務における短期的及び中長期的開発課題を毎年自主研究として採択しておりますが、これらの中から「研究報告・技術報告」として6篇を掲載しました。この中で「ヨウ素129」に関する研究は、福島第一原発事故以来当協会が社会に提供したいいくつかの技術の一つであります。このようなことが可能となった背景には、当協会と九州大学が表裏一体となってこの分野の研究を継続してきたことがあり、大学との連携が重要であることを改めて示しています。

「業務報告」では当協会が実施している主要な公益事業である「福岡県地球温暖化防止活動推進センター」、[エコアクション21地域事務局 ECO-KEEA 九環協]及び「エネルギー・環境情報センター」の活動内容を報告しております。

最後に、ご寄稿いただいた先生方と職員の皆様に改めて感謝申し上げます。

(編集担当：松岡)

一般財団法人 九州環境管理協会 会報

「環境管理」第42号

平成25年7月1日発行

発行者 持田 勲

発行所 一般財団法人 九州環境管理協会
〒813-0004 福岡市東区松香台1-10-1
TEL (092) 662-0410(代)
FAX (092) 662-0411

印刷所 (有)一正堂